教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合代表者 川原芳和
編集人 小西宏典
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2018/6・1
No. 1953
2面
・専門部三役より「障害児教育部」「養護教員部」

兵庫教育文化研究所
―研究所40年のあゆみから―
記念シンポジウム

5月11日、ラッセホールにて第80回運営委員会・研究所員会議が開催された。研究所員・協力研究所員、122人が参加し、今年度のとりくみについて協議した。

西嶋研究所副所長のあいさつ、大塚研究所事務局長の経過報告・協議事項の提案のあと研究所設立40年を記念して、「研究所40年のあゆみから」と題した記念シンポジウムがあり、研究所の歴史やこれまでのとりくみについて、8人の方から提案・報告があった。今回は、その様子を要旨として掲載する。（一部抜粋　次号も要旨掲載予定）

基調提案

『研究所がめざしてきたもの』
こうして研究所はあゆんできた

桂正孝さん

兵庫教育文化研究所は、学校現場と協力研究所員が一体となって研究をすすめることができる場所である。その流れで、「トライやる・ウィーク」など兵庫型体験学習が続いてきている。

兵教組は、さまざまな運動を展開してきたが、地域教育改革運動（教研活動）の交流の場として教育研究集会があり、現在は、ひょうご教育フェスティバルという形になっている。地域の教育の祭典にならなければならないと、子どもと親の劇場などもおこなっている。そして、教育と文化を結合し、運動にしていこうとした。これは、兵教組の大きな結集による運動が研究所を生み育ててきたという歴史である。

私は、一番最初に子どもの詩と絵を『40年のあゆみ』に載せようと言った。この教育の一番の根源は子どもの自由な表現力。そして、「こどもの権利条約」ができ、それに批准する運動をほとんどやってきた。

教育というのは、教育行政と現場の教職員が一緒に手を結ばなければ成り立たない。教職員がやりたいと思う子どもの視点にたった実践をできるだけ集めて、みんなの力でそれを県内各地へ広げていってほしい。

現場の先生方が研究所員になって、それをサポートする形で協力研究所員がいるというシステムは兵庫のほかに、全国的にどこにもない。

研究所員は現場の実践家であり、実践家が中心にならなければならない。そして、実践を深めるためには、大学の専門的な研究者も当然必要である。

『平和教育実態調査。『平和教育実践ガイド』のとりくみ』
平和教育を色々な学習に

山内静代さん

平和教育部会は、毎年、平和教育実践交流集会を開催している。地域組合をまわりながら、学校で授業研究などをおこない、実践交流するというものである。地域組合間の交流に貢献するだけでなく、地域組合の中でみなさんの研究の高まりを生みだしている。私たち研究所員も自ら授業公開をおこなう。教育課程編成講座も、所員が自ら提案者になってさまざまなことを提案していくので、多くの参加者を得ている。

そして、10年に1度平和教育に関する実態調査をおこなっている。これまで、県内の公立小中学校ほぼすべての学校から回答をいただいた。

2015年におこなった調査によると、「平和教育の重要性は理解でき、行動に移さなければならない。しかし、平和教育を実践している先輩がおらず、何をどうしていいかわからない」という分会がたくさんあった。

私たちは、この悩みに応えなければならないと、昨年「平和教育実践ガイド」をつくった。1課題1ページで、テーマはたくさん入っている。小学校から中学校まで、歴史から総合学習、理科、社会のいろいろな分野で活用ができる。これは、研究所員が自分で教育実践をおこない、工夫して書いたものである。

みなさんもこれをもとに、いろいろと工夫しアレンジして、学校の子どもたちにあった実践をしていただきたい。それをまたどこかで、持ち寄って、その実践が広がっていくことを願っている。

『兵庫の防災教育を全国に発信するとりくみ』
兵庫だからできる防災教育

神田英幸さん

兵庫教育文化研究所は、95年1月17日より、防災教育にとりくんでいる。95年に発刊した『阪神・淡路大震災と学校』という冊子に、震災に対して学校はどのようにとりくんだのか、子どもたちの様子はどうだったのか。教職員はどんな動きをしたのかをまとめている。

20年たって『こどもと教育』の別冊ということで、『阪神・淡路大震災20年防災教育アーカイブ』という、これまでの20年のとりくみをまとめている。

震災で亡くなられた子どもたち、教職員の中で、許可を得られた方の名前を銘板にきざんだ。兵教組は、毎年1月17日に、ラッセホールの2階で、追悼式（現在は「追悼の夕べ」）をおこなっている。震災当時の話をしていただくという会をずっと続けている。

震災から5年、2000年の1月17日に「震災学校支援チームEARTH」が発足した。これは、兵教組と県教委、兵庫県学校厚生会が一体となって、兵庫の防災について、考えていこうという組織で、私たちが阪神・淡路大震災の時にお世話になった方々に、お返しをしなくてはならないという目的で、設置された。

また、2013年に、EARTH員が中心となって、防災教育部会が設置された。その防災教育部会では、兵庫の防災教育について発信していくことを目的としているが、東日本大震災もあり、14年から東日本大震災で避難した児童・生徒が、その土地でどのような教育を受け、その受け入れた学校はどのようなとりくみをしているかということを調査するため、兵庫県内すべての小中学校、高等学校にアンケートをお願いした。

防災教育部会ができて、5年目になるが、防災教育部会は被災地の様子やそこでのとりくみ、実践を、どう伝えていくのかというのが、私たちの課題ではないかと思う。次の世代へつなぎ、語り継ぐということが、大事だと思っている。

記念シンポジウムの様子

『つながろうや Ⅰ・Ⅱ』発刊のとりくみ
若い世代に人権教育を継承する

坂本研二さん

同和人権教育のブックレット「つながろうや」の中では、世代交代期の中で、人権教育のアンケート調査、集計が載っているが、その10年後に調査した結果をみても、大きくは変わっていない。

しかし、大きく変わったのが、「同和教育をやっていこうと思っている」と答えた人の中で、20代の若い先生方は「自信がない」「間違ったことを教えないか不安」と思っている人が増えたということ。「やろうとは思っているけれど、適切な教材がない。研修会がない」ということが、アンケート結果にあった。

そこで、兵教組は、人権教育に関わってどういう実践があるのかという紹介をはじめ、人権教育で大切にしなければならない視点について、全県単位で、学習会をおこなった。

それを現在は各地域組合でおこない、より内容を深めていくことを目的としている。このような運動をこれからも継承していかなければならない。

学習会の中で、若い世代のみなさんに、とりくみの内容や実践を継承し、それぞれの地域組合と兵教組が連携しながら、人権・同和教育を推進し、発展させ、新たな視点でとりくんでいってほしい。

（一財）兵庫県学校厚生会
三井住友 VISA カードミュージカル
宝塚観劇バスツアー
月組公演 エリザベート～愛と死の輪舞（ロンド）～

1996 年の初演以来、観客動員 240 万人を記録するなど、宝塚歌劇を代表する人気ミュージカルとなった「エリザベート」。この公演での退団が決まっている月組トップ娘役、愛希れいかがエリザベート役を務め、新たなる「エリザベート」に歴史を刻みます。
プレミア公演になること間違いなし！かつてからの宝塚ファンの方はもちろん、初めての方もこのメモリアルな公演を楽しんでください。

開催日時　2018年8月26日（日）11時公演
会　　費　11,800円（S席チケット、バス代、お弁当、ガイドブック、劇場内のグッズショップ等で使える1,000円分の金券付き！）
※チケットのみの方は 8,300 円（S 席チケット、ガイドブック、1,000 円分の金券付き）※お弁当はつきません

募集対象　全会員とその家族
募集人数　280名（最少催行人員269名）
申込締切　7月6日（金）

厚生会だからできる！
充実したサービスをご用意しました！
●劇場内のグッズショップ、飲食店、資料館（宝塚歌劇の殿堂）で利用できる1,000円分の金券を参加者全員にプレゼント！
●初めての宝塚でも安心！
宝塚歌劇のガイドブック（22 ページオールカラー）を参加者全員にプレゼント！
★バス利用者のお楽しみ
●宝塚歌劇の紹介 DVD（約 15 分）を放映
●宝塚歌劇のポスター・A4 クリアファイル（非売品）を抽選でプレゼント！

詳細・申込みはコチラ！！
（二次元コードを読み取るとスマイルポートにリンクします）

■主催（一財）兵庫県学校厚生会　■旅行企画・実施（株）阪急交通社

お申込み お問合せ
（一財）兵庫県学校厚生会　事業企画部福祉課
（〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 4-7-34）
TEL（078）331-9968FAX（078）322-3582
スマイルポート http://www.kouseikai.or.jp/

兵教組 2018年度 専門部三役より 障害児教育部 仲間のみなさんへのメッセージ

とりくみの重点課題

障害があることを理由に、差別・区別されることなく、ともに参加活動できることを保障するために、障害者権利条約が批准され、障害者差別解消法が施行されて3年目を迎えました。

今、私たちの目の前にいる障害のある子どもたちは、障害が故に差別・区別されて、本来のその子どもたちの願っていることが阻害されている状況はうまれてはいないでしょうか。

私たち障害児教育部は、学校現場での日々のとりくみを丁寧にふり返りながら、どんな子どもも行きたくなるすべての子どもたちの権利が保障される学校づくりをめざします。

佐藤豊部長（三木）

次々と新しいしくみ、用語、考え方が飛び込んでくる時代になり、なかなか頭

谷口吉一副部長（西宮）

今年度から副部長になりました谷口です。

障害のある子どももない子どももともに学び、ともに育つ学校、すべての子どもが安心できる学校である〝インクルーシブな学校〟をめざして、仲間とともに運動をすすめていきたいと思います。よろしくお願い

や心がついていかないもどかしさはありますが、「ともに生き、ともに学び合う」という方向性をぶれることなく、持ち続けたいと思っています。今年度もよろしくお願いいたします。

剱物伸祐副部長（多西）

今回このような大役をいただきありがとうございます。

すべての子どもたちにとって居心地のよい学校園になるよう微力ながら、が

荒川鉄也副部長（姫路）

共生社会は共に生き、共に学ぶことから繋がっていきます。そのことを特別支援学校から発信していきます。

んばりたいです。よろしくお願いいたします。

兵教組 2018年度 専門部三役より 養護教員部 仲間のみなさんへのメッセージ

とりくみの重点課題

「チーム学校」「ブラック部活解消」など次々に学校のあり方自体を問うようなとりくみがだされていますが、はたして現場はどうでしょうか。保健室に訪れる子どもの背景は家庭経済の不安定、ネグレクト、保護者の精神的疾患、複雑な家庭の人間関係など家庭環境の問題、愛着問題を抱える子どもが増加傾向にあります。心とからだのしんどさを訴える子どもたちに対処療法的に対応してもその場しのぎでしかありません。学校に居場所をもとめている子どもたちに教職員、保護者、関係機関がよりよく連携し、安心と安全を提供することが必要だと考えています。養護教員部では、子どもたちが安心して、安全に学校生活を送ることができる環境整備をすすめること、教職員や関係機関との連携を図り、学校保健体制を整備すること、子どもたちや教職員への健康教育の推進をはかることなど様々な条件整備にとりくんでいきます。

倉内典子部長（東播）

いろいろな問診票を4月

若佐佳世子副部長（三木）

になるとチェックします。チェックしながら「安全性、有効性、必要性、子どもの人権とプライバシー」という言葉を考えます。何のために必要なのか、人権に配慮されているのだろうか。昨年のサマーセミナーで高柳先生が「学校はできないことを探すところではありません。困らないようにするところです」との言葉にハッとしました。足りないところ、できないことに目を奪われがちですが、足りないところは補えばよいのです。養護教員は違う視点から子どもを見ることができる目を持っているはずです。発想を豊かに転換させたいと思っています。

長田由香里副部長（赤穂）

副部長6年目になりました。初年の緊張はどこへ。今では三役がラッセに集い、様々な課題解決にむけて知恵を出し合う委員会が、毎回楽しみに感じられるようになりました。この

子どもたちの困り感を受けとめ、良い方向へ向かうよう奮闘する日々。そして、ともに喜び合うことの嬉しさ。組織に守られ先導され、養護教員部の運動を後押ししてくださる心強さを、三役の仕事を通して感じた一年間でした。この安心感を仲間にも届け、ともに歩んでいきたいと思います。

辻かおり副部長（多紀）

副部長4年目になりました。組合は、たくさんの出会い、情報、元気をもらえる場です。今年度も、子どもたちが安心して、安全に過ごせる学校、私たちにとっても、働きやすい職場であるよう、みんなで力を合わせて頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

辺で新しく、みなさんの中からどうですか。私たち養護教員部三役は今年もチームワークでとりくみ、県内の養護教員の皆様とつながり、ともにがんばっていきたいと思っています。

「人気なライオン」

芦屋市立岩園小学校　四年
泉　琴葉

（こどもの詩と絵　第38集より）

わたしのふしぎ

篠山市立城北畑小学校　二年
植村　結愛

ときどき思う
わたしはなんで　ここにいるんだろう
お母さんに聞いても
友だちに聞いても
わからない
なぜ　生きているのか
なぜ　手や足がうごくのか
なぜ　しゃべれるのか
なぜ　ことばをよめるのか
わたしがどうなっているのかわからない
じぶんがなぜいるのか
ほかの人たちがなぜいるのか
わからない
もっと　体のこと　じぶんのこと
あい手のことを知りたい
知ったら　ここにいるじぶんのことが
よくわかると思う

（こどもの詩と絵　第38集より）

訂正とお詫び

5月15日（1953号）の教育ひょうごの表に誤りがあり、特別分科会Ⅰの項目が抜けておりました。**正しい表は左表です。**訂正してお詫びいたします。

領域	No	分科会（太字は指定分科会）	領域	No	分科会（太字は指定分科会）
（1）子どもを中心にすえた わかる授業・楽しい学校づくり	1	日本語教育	（2）地域と手をたずさえて 子ども・保護者の願う教育改革	12	幼年期の教育と保育問題
	2	外国語教育		13	人権教育
	3	社会科教育		14	インクルーシブ教育
	4	算数・数学教育		15	国際連帯・多文化共生の教育
	5	理科教育		16	ジェンダー平等教育
	6	美術教育		17	環境・公害・食教育
	7	音楽教育		18	平和教育
	8	技術・家庭科教育		19	情報社会の教育と文化活動
	9	保健・体育		20	評価・選抜制度と進路保障
	10	総合学習		21	教育課程
	11	自治的諸活動と生活指導（小学校・中学校）		22	学校・地域における教育改革運動
					小規模・少人数校の教育
				23	教育条件整備の運動
特別分科会Ⅰ		生きる力を育む教育			

自動車共済・2017年9月1日より制度改定しました！

教職員のための共済だから！

■通勤中の事故は等級ダウンなし！

※補償充実コース・6等級以上で1共済期間中1回限り
※既契約に対しても、9月1日以降適用となります

NEW

■公務使用中の事故も等級ダウンなし！

※全コース・全等級に適用

■事故有係数使用の等級割引制度不採用！

多くの損害保険会社や共済で導入されている
「事故有係数」を使用した等級割引制度は採用していません。

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

あんしんむすぶ
教職員共済

資料請求・お問い合わせは▶

教職員共済生活協同組合
兵庫県事業所

〒650-0004
神戸市中央区中山手通4丁目
10-8 ラッセホール4F

電話（078）221-9730
FAX（078）221-1199

承17-56-01（1707）